

< 要望書 >

絶滅危惧植物ハナヒョウタンボク (*Lonicera maackii* (Rupr.) Maxim.) の保護に関する要望書

平成17年12月15日

長野県知事田中康夫殿

環境省発行の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」に記載されているハナヒョウタンボク (*Lonicera maackii*) が長野県に自生しています。この植物は現在のところ長野県以外では岩手県にその自生が確認されているほかは我が国に自生が確認されていません。そのハナヒョウタンボクがいま、生育地の開発行為によって消滅しようとしています。長野県植物研究会ではこの事態を憂慮して長野県にこの植物の保護を要望する次第です。この植物の長野県における自生地は県内でも軽井沢など東信の一部地域に限られていて、しかもその生育には特別な環境条件を必要としています。もし、この植物が長野県や岩手県から消滅すると日本からこの植物が永久に絶滅してしまいます。これは我が国の植物学研究にとってのみならず文化的な損失と思われます。いま、国際的に野生生物種の保全が重要な課題として取り上げられ、また各国が生物多様性保全の国家戦略を推し進めている現在、長野県でこれらの植物が絶滅することはなんとしても避けたいところです。長野県においてこの植物の保全策を具体的に策定して頂きたく再度お願いする次第です。

長野県植物研究会 会長 林 一六